



令和7年3月17日

小田原市立下幼稚園

担任 藤原 園加

梅の花が散り始め、桜の時期が近づいてきました。

早いもので、つき組は明日、いよいよ卒園式を迎えます。子どもたちと過ごした日々が、あまりにもあっという間すぎて…担任としては、実はまだ実感が湧いていませんが、子どもたちが立派に巣立つ姿をしっかりと見送りたいと思っています。

幼稚園生活を通して…

卒園の日が近づき、つき組の今までを振り返る中で『本当に成長したなあ』と感ずることがたくさんありました。その中でも特に、友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じ、遊びを通して思いを伝え合うようになったことが大きな成長ではないかと感じています。

年度当初は、話を聞くことへの意識が薄く、話し合いが上手くいかないことが多かったつき組でしたが、秋まつりや氷鬼などを通し、徐々に意識が変わったことで、人の話を聞き、自分なりに考えたことを発言する姿が見られるようになりました。心優しい子が多い分、友達の思いを聞くと、自分の思いとは裏腹に、ついつい「いいよ」と賛同してしまうことや、伝える前に諦めてしまうことも少なくありませんでした。『伝えてみたら分かってもらえた』『言葉にして伝えないと伝わらないんだ』と、遊びや活動を通して学んでいく姿を見て、幼稚園での遊びや生活は、子どもたちにとって学びそのものであることを改めて感じました。



卒園式に向けて…

「もうすぐ小学生になる」「ランドセル届いたよ」という声が聞かれ始め、子どもたちが『小学校』を意識し始めた2月の初め頃、クラスでも卒園に関する活動を開始しました。

まずは『幼稚園生活でどんなことが楽しかったか』を振り返り話していくことで、充実した園生活であったことを思い出しながら『お別れの言葉』を考えていきました。今年はそれぞれが考えた『幼稚園で一番楽しかったこと』を、自分なりの言葉で一人ずつ言っていきます。今までの姿を思い浮かべながら、子どもたちの言葉に耳を傾けていただければと思います。

取り組み始めたばかりの頃は、まだ分からないことばかりで不安そうに行っていた子どもたち。「今は、一生懸命覚えているときだから、間違えても大丈夫だよ」という教師の言葉に安心したのか、少しずつ自信をもち取り組むようになりました。そして、卒園式の日が近づくにつれ、証書をもらう姿、入退場で歩く姿、お別れの言葉と歌の音量など、日に日に意識が高まり、格好良い姿になっていき『卒園式の日は、今までで一番格好良い姿を見てもらおう』と、張り切って取り組んできました。明日は、いつもとは違う雰囲気の中、たくさんの保護者や来賓の方の中で、きっと緊張しながらも頑張る姿を見せてくれることと思います。お子さんのどんな姿も、温かく見守り、幼稚園生活での成長を感じていただけたらと思っています。



たいせつなたからもの

下中幼稚園で過ごす日々の中で、大好きな友達ができ、その友達と一緒に遊んだり、笑ったり、泣いたり、怒ったり、歌を歌ったり、ダンスをしたり、給食を食べたり、一緒に頑張ったり…とってもたくさんの思い出ができたことでしょう。

楽しいことだけではなく、葛藤したり、挫けたりしたことも、子どもたちの成長にとって欠かせないものであり、今となっては良い思い出の一つとなったのではないのでしょうか。

素直でとても優しく、思いやりをもって友達と関われるところや、友達の良さに気づき、受け入れたり「いいね!」「すごいじゃん!」と、素直に褒めたりできるところが、つき組の良さだと思っています。

これから、幼稚園とは違った大きな集団の中での生活が始まり、きっと不安や戸惑いもあることと思いますが、どんなときでも、幼稚園生活でできたたくさんの思い出や、つき組の思いやりに満ちた優しい心など『たいせつなたからもの』が、これから子どもたちにとって、土台となり、励みや心の支えとなり、自信をもって楽しい毎日を過ごせますように…。いつまでも応援しています。

そして、とても温かい保護者の皆様と、同じ目線でお子さんの成長を見守っていかれたことは、担任にとって支えであり、とても嬉しいことでした。お子さんが入園してから今まで、本当にありがとうございました。

